令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　大谷　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

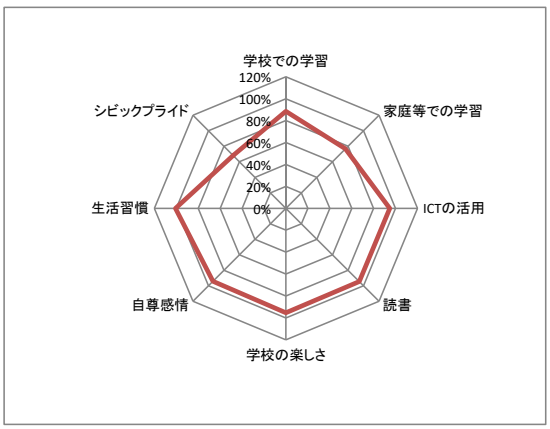
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は本市とは同程度であるが、全国より若干下回った。 ・書くこと及び読むことに関する内容や記述式の問題の正答率は全国平均を上回った。 ・無回答率はすべての問題において全国平均よりも低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	・数と式、関数、データの活用の内容に関しては全国平均を上回ったが、図形の内容に関しては下回った。 ・無回答率はすべての問題において全国平均よりも低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	空間における平面が同一直線上ない３点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	・聞くこと及び話すことの正答率は全国平均を上回り、読むこと及び書くことは全国平均を下回った。 ・無回答率は多くの問題において全国平均より低いが、思考・判断・表現に関する問題においては無回答率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」という質問の肯定的な回答は全国平均を上回っており、生徒個々が授業における学習の取り組み方を考え、身に付けてきていると考えられる。 ・９割近くの生徒がＩＣＴ機器の活用は学習に役立つと回答しており、学校の授業以外の時間で学習にＩＣＴ機器を１時間以上活用している生徒は、１割程度いる。授業におけるＩＣＴ機器の活用を進めていくとともに、家庭学習での活用も啓発していく。 ・友達関係に満足している生徒は９割程度、自分には良いところがあると思う生徒は８割程度となっている。今後も、学校・学年行事などが、主体的・協働的な取組となるようにし、成功体験を積み重ねていくようにする。 ・地域の行事に参加している生徒は２割程度である。活動制限も緩和され、今後は活発になっていくことを期待する。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○授業において、効果的なＩＣＴ機器の活用を念頭に置きながら授業改善を継続していく。
○思考・判断し、表現していく場面を授業の中に位置づけ、能力を高めていくよう努める。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○毎日朝食を食べる、同じくらいの時刻に起きる生徒は９割程度おり、家庭における生活リズムは安定している。その中に家庭学習を位置づけることができれば学力向上も期待できるため、引き続き啓発していく。